

第9回原子力委員会定例会議議事録（案）

1. 日 時 2005年3月8日（火）10:30～11:05
2. 場 所 中央合同庁舎第4号館7階 共用743会議室
3. 出席者 近藤委員長、齋藤委員長代理、木元委員、町委員、前田委員
内閣府
戸谷参事官、後藤企画官、森本企画官、犬塚参事官補佐
4. 議 題
 - (1) 前回議事録の確認
 - (2) 第6回アジア原子力協カフォーラム（FNCA）コーディネーター会
合の開催について
 - (3) その他
5. 配布資料
 - 資料1－1 第6回アジア原子力協カフォーラム（FNCA）コーディネーター会合の開催について
 - 資料1－2 アジア原子力協カフォーラム（FNCA：Forum for Nuclear Cooperation in Asia）の活動について
 - 資料2 第8回原子力委員会定例会議議事録（案）
6. 審議事項
 - (1) 前回議事録の確認

事務局作成の資料2の第8回原子力委員会定例会議議事録（案）が了承された。
 - (2) 第6回アジア原子力協カフォーラム（FNCA）コーディネーター会合

の開催について

標記の件について、犬塚参事官補佐より資料1-1及び1-2に基づき説明があり、以下のとおり質疑応答があった。

(齋藤委員長代理) 我が国の財政状況も逼迫している折、FNCAとIAEA(国際原子力機関)のRCA(原子力科学技術に関する研究・開発及び訓練のための地域協力協定)の両方について効率的、効果的に運営していただきたい。それから、「アジアの持続的発展における原子力エネルギーの役割」パネル会合についてだが、「アジア地域におけるエネルギー協力」に関してはASEAN+3(東南アジア諸国連合及び日中韓)エネルギー大臣会合も開催され議論されている。密接に連携して、重複を避け、それぞれの役割を果たすべく効率的に進めていただきたい。

(近藤委員長) RCAとの関係は今回取り上げるのか。

(犬塚参事官補佐) FNCAのセッションの中でRCAの活動状況についてご報告いただこうと考えている。ただし、RCAとの協力について具体的に議論するかどうかは検討中である。

(近藤委員長) RCAについて報告していただくとのことだが、情報交換というスタンスなのか。

(犬塚参事官補佐) 先程齋藤委員長代理が言われたように、相互に連携協力するという観点から、活動状況についてご報告をいただく。

(木元委員) RCAとの関係は、以前から指摘されているが、あまり進んでいないという印象がある。資料1-2の1ページに書かれているように、RCAにはNPT(核拡散防止条約)を批准していないインドとパキスタンが加盟しているなど、事情があるような気がする。

(近藤委員長) インドとパキスタンの問題だけでは説明として不十分であり、必ずしも連携すべきと決める必要もないが、きちんと説明できるよう整理したほうがいいと思う。

(犬塚参事官補佐) そういう意味で今回予備的な検討を行う人材養成に係る議論においては、資料の1-1の4ページ、前回の大臣級会合のサマリに「ベトナムから提案のあったアジア原子力大学構想については、IAEAのANENT(アジア原子力技術教育ネットワーク)にも配慮しつつ」とあるように、具体的な協力を視野に入れて進むよう努力しているところである。

(近藤委員長) RCAはIAEAの資金で行われるものでありFNCAは持

ち出しでやるという、本質的な性格の違いから、両者を並行して進めればよいという説明もあると思うが、いずれにしても受身ではなく積極的に説明する論理を用意し、例えばこういった資料に必ず1行書いておくとよいと思う。

(町委員) 資料1-2の「1. 目的」にあるように、FNCAははっきりとした独自の目的を持っており、その大事なポイントの1点目は「パートナーシップ」、2点目は目に見える「社会・経済的な発展を促進する」ということである。RCAは、IAEAの技術協力局の予算を使うので、垂直協力的な面があるが、一方、FNCAは水平協力であり、予算は会合費や旅費等に限定されている。この違いを活用した相乗効果を生むようなやり方は大事だと思う。一方、RCAとのテーマの重複など見掛けの問題にとられず、内容でFNCAの特長をきちんと認識して進めればよいと思う。それから、各国のコーディネーターの中には、RCAにも参加してよくその内容を知っている方もおり、重複があれば指摘されると思う。毎年FNCAにIAEAの方を呼んでRCAの活動を報告してもらい、また、RCAの政府代表者会議に日本側から出席してFNCAの活動を報告するといった交流も行われている。両者の相乗的な効果を示すものとしては、FNCAで子宮頸がん治療のプロトコルを作り、それを使ってRCAがトレーニングコースを行っているという例もある。

原子力技術を提供する際、とくに放射線利用においては、利用する側は必ずしも原子力分野の方ではなく、医学や農業の分野の方であるので、成果を有効に活用するためにも、そういったエンドユーザーと技術を持つ各国の原子力研究所等との連携を強めるべきであると思う。これまでもそういったことを議論しているが、今回の、FNCAの将来や個別プロジェクトの評価に関する議論において、再度検討する必要があると思う。

(近藤委員長) 齋藤委員長代理の2点目のご指摘、ASEANやエネルギー経済研究所のプロジェクトとの関係については、すでに議論し、連携を進めるのはよいこととしたと理解している。そのときもシングルチャンネルではなくマルチチャンネルのほうがよいこともあることを念頭に、資源の効果的利用を考えながら、それぞれのチャンネルの役割を明確にして議論を進めていかれるのがよいということであろう。

(前田委員) 9カ国の技術レベルや経験、人材など色々差があると思うが、8つのプロジェクトのうち、オーストラリアが安全文化を主導する以外は日本が主導しているとのことである。各国の原子力分野の方が密接に連携しながら原子力技術を利用していくためには、本当に真剣に取り組んでも

らわなければならない。そういう観点から、各国にいずれかの分野のプロジェクトリーダーをやってもらうとよいのではないかと思う。

(町委員) 今度マレーシアが主導的な役を果たそうというプロジェクトが1つある。それから、例えば、バナナや蘭の耐虫性向上といった品種改良技術は、日本はあまり経験がなく、タイが進んでいるので、会合費等は日本が出すが中身はなるべくタイに主導してもらうのはどうか、という議論が現在されている。

(近藤委員長) 前田委員のご意見は、個別具体的話ではなく、ポリシーとして、「アジア地域で原子力技術が効果的に使われることが重要であり、かつ原子力分野では日本が圧倒的リーダーだから、基本的に日本が全てのプロジェクトリーダーを務める」としているのか、それに対して、国際組織の運営において通常そうであるように「1国がプロジェクトリーダーを半分以上独占してはいけない」とすることもあってはならないかということであると思う。

(町委員) 若干誤解があると思う。お金は日本から出ているが、プロジェクトリーダーは各国におり、皆が集まって議論している。4ページの「主導」という言葉が誤解を招きやすいと思うが、日本が途上国に対して旅費や会合費を出しているという意味である。

(戸谷参事官) ある意味ではホストということである。

(近藤委員長) プロジェクト内に多数のプロジェクトリーダーがいるというのも仲良しクラブ的で誤解を招きやすい。ホストがスポンサーを意味するのであれば、お金が無い国にはまかせられないが、ホストとお金を分離し、保有する専門技術も含めて総合的に判断して、プロジェクトの中心を各国に分割するなど、パートナーシップという理念を体現する工夫も必要ではないかと思う。

(前田委員) 他国が「日本がお金を出しリーダーシップも取ってくれる。我々はその話を聞いていけばいい。」と考えるとよくないと思う。

(町委員) 実際はそのようになっていないと思う。日本が仕切って他国にものを言わせないなどということは全くなく、各国のプロジェクトリーダーはかなり自由に活発に発言している。

(木元委員) 私が原子力委員になった当時、FNCAの前身である「アジア地域原子力協力国際会議」は仲良しクラブ的な組織だった。最初はその会議に私の席もなかった。その後問題を指摘し続け、皆さんにも検討していただいて、FNCAとなった。その際に新しく設けられたコーディネーターの役割が非常に重要であると思っているので、次回のFNCA会合の際

にどう展開していただけるのか、その活躍に期待している。

それから、人材養成はFNCAだけでなく色々な場に取り上げられるが、「なぜ原子力の人材養成が必要なのか」、「原子力はこれだけ地球環境や人類社会に貢献できる」といった説明が先にあり、それから「人材養成をすべき」という話をするのがよいと思う。アジア原子力大学構想や色々なプロジェクト等の詳細の前に、まず皆が原子力にぱっと顔を向けるような土台を作って見せて欲しいと願っている。

(近藤委員長) 今のご発言のポイントは2点あると思う。1点目は、原子力委員会とFNCAの関係をどう整理するかということ。原子力委員会は執行機関ではなく諮問機関なのだから、原子力委員会の政策を実施していただいているところ、我々は評価者の立場にあることを明確にする必要があると思う。

2点目は、FNCAの活動が原子力委員会の政策の政策目標に対応して活動し、その目標が達成されているかという評価が必要ではないかということ。FNCAは専門的な学界や産業界の活動であるところ、専門家から見れば素晴らしいことをやっている、個別の話ではなく、全体の評価が評価グループから定期的に報告されれば、我々も納得でき、国民に対して説明できる。実はプロジェクトごとにホームページや機関紙を発行し、成果を公表していると承知しているが、納得できる人が集まって評価をし、全体としての評価書を1枚出していただくと、我々は非常に助かる。

(犬塚参事官補佐) その意味で今回のコーディネーター一會合において、8分野のうち多くの分野で評価が行われる予定になっており、コーディネーター一會合の結果を原子力委員会に報告する際に、その評価結果もあわせて報告することを考えたい。

(町委員) 原子力委員になる前にコーディネーターとして原子力委員会にFNCAの成果を報告し、その際は写真などを使い具体的な成果について説明したが、ここ1年は原子力委員会にそういった報告がされていない。

(近藤委員長) それでは、以上で会議開催のお知らせに触発されての意見交換を終わる。

(3) その他

- ・ 事務局より、3月15日(火)に次回定例会議が開催される旨、報告があった。